

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2022年9月

販促・魅力発信

- 本年4月13日、14日、水産見本市である「シーフードショー大阪」に、常磐・三陸地方の事業者が参加し、経済産業省も出展をサポート。
 - また、8月24日～26日に開催された日本最大級の水産見本市「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」（東京開催）においても、常磐・三陸地方の事業者の方々の出展をサポート。
- **今後も継続的に、全国の加工・流通・小売事業者や消費者に対し、直接、常磐・三陸産品の魅力や安全性についてアピールし、全国における消費拡大につなげていく。**

シーフードショー大阪（4/13～14）

- 来場者数は合計5,474名
- 次回は来年の2月に開催予定



- 福島県・宮城県など計9事業者の出展をサポート。
- 結果として名刺交換をしたバイヤーとの間で、**76件の商談がほぼ成立し、204件が今後の商談につながった**との回答をいただいた。
- 出展者からは、「**新たに関西地方に顧客をもつきっかけになった**」「**商談につながるいい話ができ**た」など、大きな手ごたえを感じていただいた。

ジャパン・インターナショナル・シーフードショー（8/24～26）

- 昨年の来場者数は**合計11,125名**
- 東京ビッグサイトにて開催



- 福島県・宮城県など計7事業者の出展をサポート。
- 結果として名刺交換をしたバイヤーとの間で、**22件の商談がほぼ成立し、94件が今後の商談につながった**との回答をいただいた。
- 集客のためのイベント（寿司試食会等）も開催

- 地元の各団体の皆様や事業者などのご協力のもと、三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として「**ごひいき！三陸常磐キャンペーン**」を本年**10月1日より実施**。
- **三陸常磐エリアの食材のブランド化や認知拡大**を図るための本キャンペーンにおいては、10月によみうりランドで実施するイベントを皮切りに、**大型地方物産イベントへの出展や、小売業と連携した販売促進キャンペーン**などを実施予定。
- 三陸常磐エリア水産物の魅力や安全性を発信するため、販売促進・流通拡大に向けた取組を行うことで、今後も取引が継続するような環境整備につとめていく。

全国紙を活用した広報

キャンペーン専用HPの開設

- 「ごひいき！三陸常磐キャンペーン」の第1弾として、**三陸常磐水産品等の魅力発信イベント**をよみうりランドにおいて開催予定。
- 同イベントにおいては、①三陸常磐水産物を扱ったバーベキューや②レストランとコラボした三陸常磐メニューの提供に加え、**③漁業関係者の方々にご協力を頂きながら、三陸常磐水産品を販売するブースを出展予定。**
- 本イベントにおいては、ご来場者に対し、イベント後も**継続して三陸常磐産品を消費できる場の情報提供**や、よみうりランド内のレストランにおいて**イベント後も三陸常磐産品を取り扱っていただくための働きかけ**といった、イベント後も**継続して産品の消費拡大に寄与する仕組み**を併せて実施予定。
- また、こうしたイベントを広く発信するため、**新聞広告などを活用した情報発信**や、**インフルエンサーによるSNSを活用した発信**を実施予定。

「ごひいき！三陸常磐キャンペーン」第1弾



- 本年7月、気仙沼市の生鮮カツオ水揚げ数量25年連続日本一を記念し、全国のカツオ産業関係者が集まる「**第3回全国カツオまつりサミットin気仙沼**」が**開催**され、経済産業省も開催を支援。
- 同イベントにおいては、カツオの消費拡大について討論する「記念シンポジウム」や、全国のカツオのまちのご当地グルメなどが集い、カツオ日本一のまちとして盛り上げる「全国カツオまつり」を実施。
- 当日（7/22,23）の**来場者数は3000人を超え**、イベントで実施された“カツオの薫焼きお振舞い”では、**約560食のカツオが提供**された。
- こうした取組をはじめ、三陸地域の水産品・水産加工品の魅力発信を継続していきたい。

全国カツオまつりの様子



カツオの薫焼きお振舞いの模様



- 本年6月から、経産省において**福島などの水産物を使った料理を定期的に販売する取組を開始**。（8月までに計3回実施。）
- **本年9月には第4回を実施**し、6月に好評であったフィッシュバーガーに加え、常盤のあんこうを使用したブラックカレー、福島地鶏の卵を使用したチーズケーキを販売し、**1日で計150食以上を販売**。
- 加えて、各電力会社においても、**福島・宮城産をはじめとする国産の水産加工品を社食で活用**し、本年4月以降、毎月提供するなど、魚食振興の取組を進めており、今後も継続して取り組んでいく。

キッチンカー販売の様子



電気事業連合会HP

電気事業連合会 魚食振興について 社員食堂でのメニュー提供 魚の料理動画 広報誌を活用した情報発信

魚食振興について

-電力各社の取り組みの今-



日本にとって大切な漁業のため、現状を正しく知り、美味しくいただく。

全国的に減少傾向にある魚介類の消費。「魚食振興」は国内水産業の課題です。魚食量の回復や風評の影響を最大限抑制するため、電力各社で行われている取り組みをご紹介します。

【参考】
2021年8月24日に開催された「第2回ALPS処理水の処分に関する基本方針の着実な実行に向けた関係関係等会議」において、東京電力ホールディングス株式会社福島第一原子力発電所の多核種除去設備等処理水（ALPS処理水）処分に伴う当番の対策が決定されました。
この決定を受け、「風評を生じさせないための仕組み」及び「風評に打ち勝ち、安心して事業を継続・拡大できる仕組み」を構築しています。

全国における魚食振興の取り組みについて
～ALPS処理水に係る風評懸念払拭のため、水産加工品等の消費・売上向上に貢献します～（2021年8月25日）

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、おかちまちパンダ広場で福島県産食材を使用した屋台等を出店した盆踊り大会や道の駅ふくしまで常磐ものを使用した浜焼き&バーベキューイベントを開催。
- 盆踊り大会には**3日間で約11,000人の来場**、浜焼き&バーベキューイベントでは**2日間で約15,000人の来場**があり、福島県産品の美味しさをPRした。
- 今後も、こうしたイベントの開催を通じて、福島県産品の美味しさ・魅力を発信する取組を継続していく。

発見！ ふくしま夏祭り・おかちまちパンダ広場盆踊り大会（8/19～21）

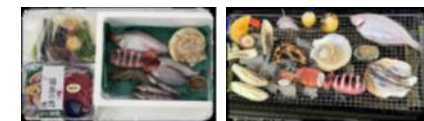


キッチンカー



屋台

海の幸まつり in 道の駅福島（9/3～4）



「常磐もの」や「福島牛」等のバーベキュー食材



浜焼き同時開催

理解釀成

- **各地での説明会の実施**に加え、各イベントに参加し、廃炉や処理水について説明を行うブースを出展。
来場者の方々と直接双方向のコミュニケーションを実施。
- また、学生を中心とした若年層に対する情報発信を強化するため、資源エネルギー庁職員による出前授業等を開催。

出前授業の実施



R4.8.3.
彦根東高校の生徒の方々との出前授業の様子

現地イベントへの参加



R4.8.20.
ならは百年祭り@笑ふるタウンならは



R4.9.10.
標葉まつり@大熊町交流ゾーン



R4.9.18.
JCカップ@Jヴィレッジ

- 本年9月、松下政経塾の塾生やOB・OGの方々が福島県沿岸部を視察。
- 本視察の中では、全国の高専生と福島第一原子力発電所のALPS処理水の処分に伴う風評対策について議論が行われ、**本視察の様子は地元紙（福島民報（9月7日）、河北新報（9月9日））においても取り上げられた。**

松下政経塾の塾生やOB・OGの方々による視察の様様



- 福島第一原発の廃炉に向け、**地域住民の皆様と廃炉関係者との対話の機会を提供**することを目的に、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）は、**福島第一廃炉国際フォーラム**を開催しており、第6回は、8月28日に大熊町、8月29日にいわき市で開催された。
- **ALPS処理水を含む廃炉の最新の状況のご紹介と、ALPS処理水の安全性など廃炉のあり方を考えるパネルディスカッション**が行われ、地元の方や高校生、海外の専門家を交えて、活発な議論が行われた。
- 本フォーラムの様子は地元紙（福島民友、福島民報、河北新報）においても取り上げられた。

第6回廃炉国際フォーラムのパンフレット



https://ndf-forum.com/pdf/1fd6_flyer.pdf

太田経済産業副大臣による来賓挨拶・パネルディスカッションの様子



安全確保

- 本年11月14日～18日に、IAEA職員及び国際専門家が来日し、**東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性に関するレビュー（2回目）（※）を実施予定。**

（※）第1回は本年2月14日から18日にかけて実施（報告書のポイントは以下）。

経済産業省HPにおけるリリース

申請・お問合せ | English | サイトマップ | 本文へ | 文字サイズ変更 

ニュースリリース | 会見・動静・談話 | 審議会・研究会 | 統計

ホーム ▶ ニュースリリース ▶ ニュースリリースアーカイブ ▶ 2022年度9月二覧 ▶ 東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の安全性に関する レビュー（2回目）のためにIAEA職員及び国際専門家が来日します

東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の安全性に関する レビュー（2回目）のためにIAEA職員及び国際専門家が来日します

2022年9月9日

▶ エネルギー・環境

11月14日から18日に、IAEA（国際原子力機関）職員及び国際専門家が来日し、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性に関するレビュー（2回目）を行います。

11月14日から18日にかけて、IAEA職員及び国際専門家が来日し、東京電力福島第一原子力発電所のALPS処理水の安全性レビューを行う予定です。IAEA職員及び専門家が行う処理水安全性レビューは2回目であり、第1回は本年2月14日から18日にかけて行われました。

参考 IAEA処理水安全性レビューについて

- 東電福島第一原発のALPS処理水の処分については、2021年4月、日本政府が海洋放出とする基本方針を公表。日本政府よりIAEAに対してALPS処理水の安全性に関するレビューミッションの派遣等の協力を正式に要請し、同年7月、日本政府とIAEAの間で付託事項（ToR）を署名し、①ALPS処理水の安全性に関するレビュー、②規制に関するレビュー、③海洋モニタリングに関するレビュー等を実施することについて合意。
- IAEAタスクフォース（IAEA職員及び国際専門家によるチーム）によるALPS処理水の安全性に関するレビューは、主に経済産業省及び東京電力を対象として、ALPS処理水の取扱い及び安全性について、原子力分野の専門機関としての観点から評価を実施している。

【ご参考】 IAEAレビュー第1回目の報告書のポイント

1. 日本側は協力的に対応し、**レビュープロセスに顕著な進展があった**と評価する
2. 「ALPS処理水放出関連設備の安全性」は、**設備の設計と運用手順の中での的確に予防措置が講じられていることを確認した**
3. **放射線影響評価**は、包括的で詳細な分析に基づいており、**人への放射線影響は、規制当局が定める水準より大幅に小さいことを確認した**
4. 国内外の関係者の理解を得るため、**現実に即した評価や説明の追加を求める**

- 本年8月から、東京電力が、福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民友、河北新報、岩手日報、茨城新聞（福島民報はチラシの折込））に広告を掲載。**
- 今後、**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定（9月末時点で第5回まで掲載）。**

新聞への広告掲載内容（上：第0回（初回のお知らせ）、左下：第1回、右下：第2回）

東京電力から皆さまへ、福島第一原子力発電所の
廃炉の取組についてお知らせします

当社・福島第一原子力発電所の事故により、今なお、福島は皆さまをはじめ、広く社会の皆さまに、大変なご負担とご迷惑をおかけしていることにつきまして、心から深くお詫び申し上げます。

廃炉も含めた事故の責任の貫徹が当社の使命であり、「復興と廃炉の両立」に向けて、現在、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・廃炉対策を、安全を最優先の一つひとつと進め、放射性物質によるリスクの継続的な低減に取り組んでいます。

その取組の一つとして「ALPS（アルプス）処理水」への対応があります。事故で溶けた燃料（燃料デブリ）を冷やした水が「汚染水」となり、さらにこの水が建屋内に入り込む地下水や雨水と混ざり、新たな「汚染水」が発生します。これまで様々な対策により、汚染水の発生量を着実に減らしてきましたが、現在も日々発生し続けています。この「汚染水」から大部分の放射性物質を取り除き、敷地内のタンクで保管しているのが、ALPS処理水等になります。

その取組については、2021年4月、海洋放出を行う旨の基本方針が決定され、以降、当社は、地域の皆さま、関係者の皆さまのご意見を伺いながら、ALPS処理水の放出に係る設備の設計や運用の具体的な検討を進めてまいりました。これらのALPS処理水の取扱いに関する実施計画は、2022年7月に原子力規制委員会に認可いただきました。

当社としては、設備の設置にあたり安全確保に万全を期すとともに、法令等の遵守はもちろん、測定データ結果や詳細などの正確でわかりやすい情報発信、皆さまのご懸念やご関心に向き合い、お応えしていくコミュニケーション、生産・加工・流通・消費の各段階における風評対策等に、全力で取り組んでまいります。

廃炉に向けた取組については、報道発表やホームページ等を通じて公表しておりますが、ALPS処理水の取扱いを含む廃炉の現状や課題、今後の見通し等についてタイムリーにお示しし、皆さまのご懸念やご関心に向き合い、いただいたご意見を今後の事業運営にいかしてまいります。

今後、廃炉の取組に関するさまざまな情報を、継続的にお知らせしてまいります。（1回目は8月14日掲載を予定しております）

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
〒971-8531 福島県福島市大字大町2-2

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.01
福島第一原子力発電所の廃炉の取組

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・廃炉対策」の取組についてお知らせします。
「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めています。

廃炉とは

廃炉の作業は計画どおり進んでいますか？

Q 廃炉作業は計画どおり進んでいますか？
A これまで、使用済燃料の取出しや汚染水対策、放射性物質によるリスクの低減に取り組んできました。今後、使用済燃料の取出し等の進捗の遅い取組を進めるにあたっては、安全を最優先とし、着実に取り組むための取組を進めます。着実な取組を進める一方で、放射性物質の低減を進めます。

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
〒971-8531 福島県福島市大字大町2-2

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.02
福島第一原子力発電所のいま

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・廃炉対策」の取組についてお知らせします。
「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めています。

多くの方々に支えられ、安全最優先に廃炉を進めています

① 廃炉作業は、現在、1日100トン以上の使用済燃料の取出しや汚染水対策の取組を進めています。
② 汚染水の発生量は、事故発生以来、着実に減少しています。また、汚染水の発生量を減らすための取組を進めています。
③ 廃炉作業は、安全を最優先とし、着実に取り組むための取組を進めます。着実な取組を進める一方で、放射性物質の低減を進めます。

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
〒971-8531 福島県福島市大字大町2-2

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組をお伝えします Vol.03
福島第一原子力発電所の未来

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・廃炉対策」の取組についてお知らせします。
「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めています。

福島第一原子力発電所の未来

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
〒971-8531 福島県福島市大字大町2-2